

海ごみゼロウィーク

ガイドライン

海ごみゼロウィーク

世界中では年間約800万トンの海洋ごみが発生しており、2050年にはプラスチックをはじめとする海洋ごみの量が、魚の量より多くなるとも言われています。

この海洋ごみの約8割は、陸(街)で発生したものが川を伝って海に流れ出したものとされています。

海洋ごみの問題は、国民全員が海洋ごみの問題について考え、行動しなければ解決することは難しい大きな問題です。

ごみを捨てない、ごみを出さないという強い意思を日本全体に広げ、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦をしていきましょう。一人ひとりの行動が海の未来を変えることに繋がります。



プラスチック・スマートとは？

環境省では、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取組として、 unnecessary のプラスチック排出抑制や分別回収の徹底など、“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、取組を国内外に発進する「プラスチック・スマート」を2018年10月に立ち上げました。

CHANGE FOR THE BLUEとは？

国民一人ひとりが海洋ごみの問題を自分ごと化し、“これ以上、海にごみを出さない”という社会全体の意識を向上させていくことを目標に、日本財団「海と日本プロジェクト」が推進しているプロジェクトです。海の豊かさを守り、海にごみを出さないという強い意思で日本全体が連帯し、海に関心を持つ人を増やし、海の未来を変える挑戦を実現していきます。

海ごみゼロウィークは、「CHANGE FOR THE BLUE」プロジェクトを推進する日本財団と「プラスチック・スマート」を推進する環境省との共同事業です。

本取り組みにより、日本全体で国民を巻き込んだ清掃活動を実施することで、海洋ごみ問題の周知啓発とともに、海洋ごみを出さないという意識を醸成することを目的としております。

海洋ごみについて考えよう

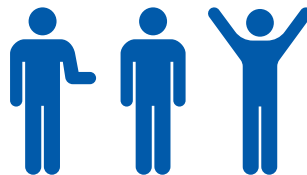
海洋ごみは、私たちの普段の生活から生み出されています。適切に処理されなかったり、ポイ捨てされたりしたごみが、川や海岸から海に入り込んで海洋ごみになります。中でもプラスチックごみは、紫外線を浴びるともろく崩れやすくなる性質があり、波や風の力等で細かく碎かれ、5mm以下のものはマイクロプラスチックと呼ばれます。海を漂うプラスチックを海鳥やウミガメ等の海洋生物が誤って食べてしまい、命を落とすことがあります。また魚が口に入れてしまったマイクロプラスチックが食物連鎖の過程で人の体に入り、表面に付着した有害物質が人体に影響を与える可能性もあります。海洋ごみ対策には、私たちの身の回りにあるごみを拾い、これ以上海にごみが流れ出てしまわないようにすることも非常に大切です。

海洋ごみ発生の原因

製造・流通



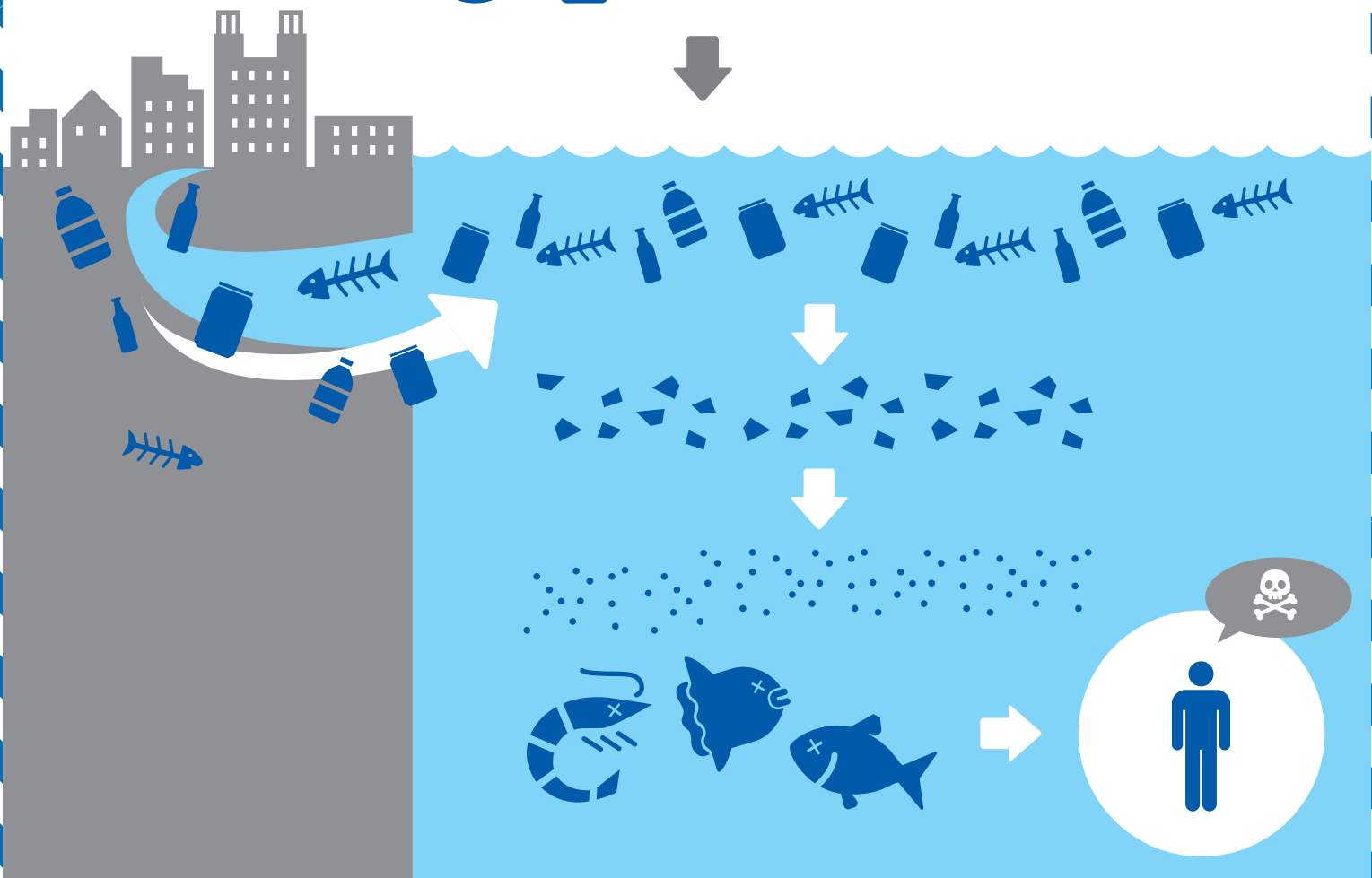
わたしたちの生活



ゴミ処理



適切に処理されないごみ



注意点

服装

- 日中は帽子をかぶるなどして熱中症に気をつけてください。
- 草むらなどで活動する場合は、長ズボンを履くなどして害虫や障害物などに気をつけて行動してください。

持ち物(軍手、トングなど)

- 危険物やプラスチックごみなどで怪我をしないように、軍手やトングを使うなどして活動してください。

熱中症対策

- こまめに水分補給を行い、熱中症には気をつけて行動してください。

ごみの分別

- 各自治体のルールに従って、ごみの分別を行ってください。

水事故

- 水際での活動は十分に気をつけて行動してください。
- 小さいお子様が1人で水際で行動しないよう管理者は配慮してください。
- 大津波警報・津波警報・津波注意報が発表された場合はすぐに高台などの安全な場所へ避難してください。
また、浸水地域や避難場所、避難経路などを予め確認しておくなど、万一来に備えましょう。

粗大ごみの処理

- ごみ袋に入りきらない大きなごみなどは、各自治体の指示に従って処理をしてください。

ごみ袋の数を数えてください

- 回収したごみ袋の数は報告フォームにてご報告頂きます。
可燃、不燃ごとに回収したごみ袋の枚数を数えてください。

報告用の写真を撮影してください

- 報告の際に活動写真を投稿頂きます。参加者が集合している写真や回収したごみ袋などの写真を撮影し、ご報告の際にご登録をお願いします。

団体責任者の指示に従って行動してください

- そのほか細かい指示に関しては、団体の代表者の指示に従い、海ごみゼロウィークにご参加ください。



海ごみゼロウィーク 2023

新型コロナウイルス感染防止対策 ごみ拾いイベント実施ガイドライン

2023 年 5 月 8 日版

海ごみゼロウィーク事務局

■はじめに

2019 年の発生以降、永らく猛威を振るい続けてきた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ですが、令和 5 年 5 月 8 日に新型コロナの感染症法上の分類が「5 類」に引き下がり、感染症対策の基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等も撤廃されることとなりました。海ごみゼロウィーク事務局としても、この内閣府の方針に準拠して新型コロナウイルス感染防止対策イベント実施ガイドライン（本ガイドライン）の対応ルールを緩和することになりました。本ガイドラインは、今年度の新型コロナウイルスに対しての、対応方針の原則、基本を定めたものであり、実際の現場では状況を適切に判断して対応する必要がございます。海ごみゼロウィーク主催者及びイベント実施の際には、各主催団体の責任のもと、ご対応をお願い申し上げます。イベントで発生した一切の病気や怪我・事故などの責任は、主催者（事務局等含む）では負いかねますので、あらかじめご了承ください。また、本ガイドラインの内容は随時、「日本財団」と「海ごみゼロウィーク事務局」による審議のうえ、見直しを行います。

■海ごみゼロウィーク 2023

「新型コロナウイルス感染防止対策 ごみ拾いイベント実施ガイドライン」利用上の注意

本ガイドラインは、使用時には以下の点に留意する。

- ・ 各エリアの自治体が直近に発表しているコロナ対策方針を確認し、本ガイドラインよりも厳しいイベント実施制限を設けている場合はそちらに従うこと。
- ・ 各地域区分に記載された対応措置は確定的なものではなく、状況によって他の地域区分の措置を適用するなど機動的に対応すること。
- ・ 新型コロナウイルスは変異する可能性があるので状況を適切に判断して対応すること。
- ・ イベント実施者が本ガイドラインを適用する場合は、イベント実施者の事情に合わせた対応をすること。
- ・ イベント会場の状況に合わせた対応をすること。
- ・ イベント参加者の属性などを考慮した対応をすること

■ご連絡・お問合せ先

海ごみゼロウィーク事務局

メールアドレス：info@gomi-zero.jp

①基本的な感染対策の考え方

○マスクの着用について

個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることを基本とする。高齢者等重症化リスクの高い者への感染を防ぐため、マスク着用が効果的な場面ではマスクの着用を推奨。

※「マスク着用の考え方の見直し等について」(新型コロナウイルス感染症対策本部決定 令和5年2月10日)を参照

○手洗い等の手指衛生、換気について

新型コロナウイルス感染症の特徴を踏まえた基本的感染対策として引き続き有効。

○「三つの密」の回避、人と人との距離の確保について

流行期において、高齢者等重症化リスクの高い方は、換気の悪い場所や、不特定多数の人がいるような混雑した場所、近接した会話を避けることが感染防止対策として有効（避けられない場合はマスク着用が有効）。

②基本的な感染対策の実施に当たっての考え方

感染対策の見直しに当たっては、以下のように、感染対策上の必要性に加え、経済的・社会的合理性や、持続可能性の観点も考慮。

- ・ ウイルスの感染経路等を踏まえた期待される対策
※飛沫感染対策、エアロゾル感染対策、接触感染対策
- ・ 実施の手間、コスト等を踏まえた費用対効果
- ・ 人付き合い、コミュニケーションとの兼ね合い
- ・ 他の感染対策との重複、代替可能性など

③トラブルがあった際の対応について

- ・ 参加者が発熱や体調不良になった場合や、後に新型コロナウイルス感染が発覚したなどの場合は、参加者全員の安全と安心を最優先に考慮し、臨機応変に対応すること